

くらしの危険 Number 393

パワーウィンドによる 事故に注意！

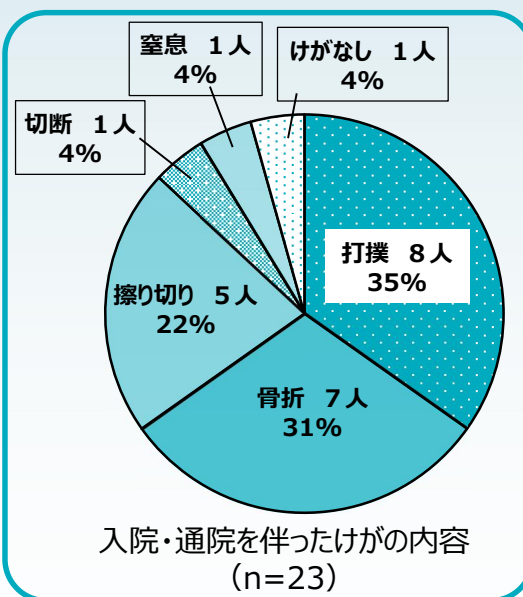


子どもが遊びでスイッチを操作したり、運転者が窓ガラスの状態を確認しないまま動作させたりしたことによる事故が発生しています。

安全対策としては、「スイッチの突出量や形状などの周辺条件を考慮し、誤操作しにくい構造とすること」や「パワーウィンドにロック機構を設定する」に加え、異物を挟むと窓ガラスが反転して開く挟み込み防止（自動反転）機能を、運転席だけでなく前後の窓にも備えた車種がみられます。

しかし、医療機関ネットワークにはパワーウィンドに起因する事故情報が継続的に寄せられており、報道等では、死亡や重篤な事故が発生している事例が確認されています。

また、事故の実態を把握するために実施したアンケート調査においても、打撲をはじめ骨折や切断、窒息といった重篤なけががみられました。



独立行政法人
国民生活センター

National Consumer Affairs Center of Japan

こんな事例が寄せられています

【事例 1】

停車中の自家用車の窓に右手小指を挟み受傷。急に泣いたことで保護者が気付いた。男児が窓を閉めるスイッチを押して、誤って挟んだ様子。
(事故発生年月：2025年9月、3歳、男児)

【事例 2】

保護者が運転する車の後部座席で、男児はチャイルドシートに乗っていた。保護者が駐車後に窓ガラスを閉めた際、男児が窓ガラスから顔を出しているのに気付かず、30秒ほど締め付けた模様。その後、同乗していた兄弟が「首、首」と騒いだため、保護者が後方を振り返ったところ、男児の首が車窓上部に挟まれており、顔面は蒼白であった。窓ガラスを開放後、男児は開眼していたものの発声はなく、傾眠傾向であったため、救急搬送された。
(事故発生年月：2021年3月、3歳3カ月、男児)

【事例 3】

パワーウィンドに左中指を挟まれ、左中指の第1関節を部分断裂。(事故発生年月：2014年4月、1歳10カ月、女児)

テスト結果

パワーウィンドの閉まる時の力について

挟み込み防止機能がない場合、**大人でも静止が難しく、その力は車両や窓の大きさに比例しませんでした**

パワーウィンドの開閉時間と窓ガラスの厚さについて

約2～3秒の操作時間で全開状態の窓ガラスは全閉になりました
窓ガラス中央付近の先端部分の厚さは、約3mmでした

→ **挟み込み時には短時間で大きな力加わる可能性があり、高い危険性があるものと考えられました**



太さ約90mmの大根も、パワーウィンドによって切断されます
※写真の自動車と事故との関連はありません

挟み込み防止機能の特性について

挟み込み防止機能が装備されたパワーウィンドでも、スイッチを引続ける操作を行うと**作動しない場合**がありました

チャイルドシートの有効性

チャイルドシートを適切に使用すると

- 身体が適切に固定されるため、着座姿勢が保持されます
- 手を伸ばした場合でも、窓ガラスやパワーウィンドスイッチから一定の距離が保たれます

→ チャイルドシートを正しく使用すれば、パワーウィンドに挟まれる危険性を大幅に低減できると考えられます

なお、6歳未満の乳幼児を乗車させる際には、チャイルドシートを使用することが義務付けられています

消費者へのアドバイス

- ✓ 乳幼児を同乗させる際は、**チャイルドシートを正しく使用し、チャイルドシートのベルトを確実に装着**しましょう
- ✓ **パワーウィンドの危険性や操作方法**について、**正しく理解**しておきましょう
- ✓ 子どもが乗車する際は、**パワーウィンドのロック機能**を活用し、**子どもによる操作を防ぎ**ましょう
- ✓ パワーウィンドを操作する際は、**安全を確認**してから行いましょう

